

踏み跡 <My Mountains>

御坂ほか	岩殿山と釈迦ヶ岳	No.301
------	----------	--------

ユニシス山中湖マラソンの行き帰りに登る山、今回は岩殿山と御坂山塊の西端にある釈迦ヶ岳を選んだ。岩殿山は、中央線の車窓から見慣れた「大月に着いたぞ」と知らせる山。低い山ではあるが、その名の通り岩場を持ち、その昔は城を構えていた山である。釈迦ヶ岳は、御坂山塊の中央部にある黒岳から北に分かれる裏尾根にある山で、芦川の一番奥になる。御坂の地図を見ていると、名前に魅かれる山や山の形に魅かれる山があるが、釈迦ヶ岳は「こんな所にこんなカッコいい名前の山があるんだ！！」と、山名とロケーションの双方から興味を感じた山である。釈迦ヶ岳は、黒岳から北に分かれて御坂山塊の主稜線から離れた稜線上にある。ゆえに、ここを御坂山塊と言うべきかどうかは悩ましい所である。ガイドブックによっては御坂山塊の区分にせず、「甲府周辺の山」という区分をしているものもあるが、私の見解としては「黒岳から分岐する芦川北部の稜線」はれっきとした御坂山塊の山脈の一部と見た。

平成12年4月15日

自宅を7時に出発。雨天のせい 고속道路の渋滞は全くなく快適なドライブになった。しかし途中から雨。大月ICで降りる頃にはしっかりとした本格的な雨。雨とは言っても谷を隔てた道志の山はよく見える。岩殿山登山口の駐車場に9時半前に到着。

雨の低山歩きも悪くはないなと負け惜しみを言いながら、雨具に身を固めて9時40分出発。桜満開の斜面の急な登り40分ほどで岩殿山頂上(634m)に到着。見下ろせば大月の町、谷の向こう側に目を移すと道志の山並みが並び、雨とは言えども絶景のいい山だ。山頂の一角で昼食をと思ったが、濡れそうなので中止。

下山路は稚児落としのルートを使うつもりだったが、東側の賑岡(にぎおか)へのルートに変更。(右写真:岩殿山山頂の烽火台)



国道139号線沿いのお寺の脇に下山して、雨が来ない杉林の中で昼食。食事をしながらちょっと脇に目を移したら立派なタラノメを見つけたので、土産にいただき。

国道を歩いて駐車場に戻ったが、まだ昼食のビールの余韻が残っているようだったので車の中で昼寝。

13時に駐車場を出発して、14時に山中湖寮に到着。(以降ユニシス山中湖マラソンに合流)

平成12年4月16日

朝起きたら小雨。ちょっと気がかりだが予定通り9時に山中湖寮を出発。

精進湖トンネルを抜けて御坂の主稜線の裏側にある芦川の谷に入り、上芦川へ。谷のどん詰まりに近い黒岳の北側にあたる所に釈迦ヶ岳の登山口がある。

登山道に入って少し進んだところで路肩に駐車スペースを確保。時間は10時、まだ雨が降り続けている。10時20分に出発。

11時07分稜線に飛び出したら雪が降ってきた。昨晚の積雪に加えてさらに今降り続いており、柔らかい新緑の色を楽しむつもりが雪景色に変わってしまった。雪が降っているせいかさほど寒くない。

11時14分、1521.8m三角点。

踏 み 跡 <My Mountains>



(左写真：間近に迫った釈迦ヶ岳・・・4月とも思えぬ迫力)

釈迦ヶ岳 11時40分。芦川の谷間から雪に囲まれて登って来たが、何と甲府盆地側は晴れているではないか。

日の光に包まれた盆地の景色とは裏腹に、御坂の山並みとそれより南側は重い雪雲の中に潜っている。

頂上は雪と小雨の入り混じったような状態で冬の山へ来たような気分。団体客が占領してうるさいので、少し下ったところで昼食。とは言ってもこんな天気です寒いし、じっくり休むわけにもいかないので食事を済ませたらすぐに出発することにした。12時に出発。

府駒山（三等三角点）12時25分。

どんべえ峠（又の名を日向坂峠）12時47分。ここからは林道歩き。途中で「すずらんの里」というきれいに整備された森林があったので見学。上芦川中学校の

生徒たちが整備していると書いてあった。

車デポ地点に14時に帰着。芦川の谷を隔てて南側を走る御坂の主稜線（破風山から大石峠のあたり）が雪で真っ白になりボリュームのある山並みに変身していた。濡れたものを脱いで帰宅モードの服装に着替えて14時20分に出発。

中芦川から鳥坂トンネルを抜けて甲府盆地側に出たら、途端に天気は晴に変わった。

御坂町の満開の桃の花を鑑賞して一の宮御坂ICから中央自動車道に入って帰宅。

まだ少し早かったので、帰宅せずに千葉の里山を巡ってタラノメを土産に追加した。

以上